

サ ギソウ寄せ植え教室



球根の植え方を指導する中野さん(右)

県新人戦で強豪富岡南中を制し、全国大会への切符を手に入れた甘楽中男子ハンドボール部（野口節朝監督・岡田 学コーチ・部員13人）が、3月23日、全国大会出場の報告に役場を訪れました。部員一人ひとりが関係者の前で抱負を述べると、茂原町長は「皆さんの頑張りは町民の喜びになる。よい便りが届くよう願っている」と激励しました。

3月26日、県立氷見高校体育館（富山県氷見市）で行われた1回戦では、ベスト8に入った神崎中（佐賀県）相手に本来の力を発揮できず、21－25で惜敗しました。

掛川竜希主将は「僕たちにとって初の経験だった全国大会では、ほかのチームの動きや意識、取り組みの違いなどたくさんのことを学べた。この経験をこれからいかしていきたい」と話しました。

甘楽町鉢植クラブ（森平毅二会長・会員約30人）は3月25日、「サギソウ寄せ植え教室」を町文化会館で開きました。

花が開いたときに白サギが飛んでいるような花が咲くラン科のサギソウの寄せ植えを指導するのは中野薫明さん（国峰）。参加した36人は会員4人が丹精し育てた球根を使用して、丁寧に植え付けました。中野さんにサギソウを育てるポイントを伺うと「サギソウは湿地を好むため、水やりが大切。あまり乾かさないように注意して、立派に育ててほしい」と話されました。

同クラブでは、展示会を年3回、教室を年2回実施しているほか、月例でテーマを決めて研修会を開き、技術を磨いています。

全 国大会の切符つかむ



甘楽中男子ハンドボール部員と関係者

災 害時支援・地域の見守りで郵便局と協定



協定書を手にする茂原町長(左)と栗原部長

3月30日、町は町内の4郵便局と役場で災害時と平常時の協力協定を締結しました。

このことにより、災害発生時にはお互い緊急車両を提供したり、被災者の郵便料金免除などが可能になります。

また、平常時には郵便配達員が業務中、地域の子どもや高齢者の異変、道路や空き家の異常などに気付いた時に、町へ情報が提供されます。

締結式に訪れた高崎郵便局の栗原和彦総務部長に対し、茂原町長は「いろいろな目で見守ってもらえることは大変ありがたいし、力になる」と話しました。

手話で交流 18区おたっしゃ会



桜を見ながら一緒に手話をしました

4月6日、18区おたっしゃ会(松本滋子代表)が鹿島公会堂で開かれ、16人が参加しました。

今回は、行事の一つであるお花見をさらに楽しんでもらおうと、近隣に住む福島小学校新5年生7人をゲストに招き、小学校の「2分の1成人式」で覚えた手話(SMAPの曲「世界に一つだけの花」)を披露してもらいました。

松本代表は、「お花見の時期と小学校の春休みが重なり、交流するチャンスができました」と話され、おたっしゃ会に参加した皆さんは、「手話を覚えたい」と子どもたちの手話をまねて、世代を超えた交流の場にたくさんの花が咲きました。

楽山園で撮影会

4月5日、名勝「楽山園」ほか町内にて、ゼネラルモーターズ・ジャパン株式会社の新型キャデラック桜前線キャラバンの撮影が行われました。

桜咲く日本の名所旧跡での撮影に、九州・近畿・東海・関東・北陸・東北エリアから二会場(群馬県と静岡県)、県内では藤岡市・富岡市・甘楽町が選定されました。撮影された写真は、自動車専門誌やライフスタイル誌、WEB媒体などに掲載されます。



ソフトテニスの普及・発展に尽力



3月19日、高崎ビューホテルで行われた平成28年度群馬県ソフトテニス連盟総会において、甘楽町ジュニアソフトテニスクラブ(外所淳也代表・左写真)と友松義和さん(福島・下写真)が表彰されました。

日本ソフトテニス連盟優良団体表彰を受賞した同クラブは、甘楽・富岡地区の小・中学生を対象にソフトテニスの普及活動および選手育成や指導を行っています。週2回の練習や清掃活動も実施し、子どもたちの育成に大きく寄与、ソフトテニスの普及・発展に大変貢献しています。

また、県ソフトテニス連盟功労者表彰を受賞した友松さんは、長年にわたり同連盟甘楽支部の役員を務め、支部の発展のために尽力されています。ソフトテニス歴58年、現在も中学生を中心としたジュニアの育成に力を注ぎ、地域スポーツの振興・発展に活躍されています。





入園式会場の文化会館前で

小学校3校では、4月7日に入学式が行われ、99人(男子50人、女子49人)の新1年生が誕生しました。

小幡小学校の新1年生28人は目をキラキラ輝かせ、初登校しました。在校児童を代表し、新井琉惟くん(6年)が「わからないことや困ったことがあったら、気軽に話しかけてください。これから小幡小の仲間としてよろしくお願いします」と一年生を迎える歓迎の言葉呼びかけました。

入園・入学 おめでとう

町内の保育園、幼稚園、小中学校で入園・入学式が開かれ、それぞれの新しい生活がスタートしました。

4月5日には、町文化会館でかんなら保育園の入園式が行われ、新入園児を含む園児全員と保護者が出席しました。茂原町長は、「元気に楽しい保育園生活を送ってください」と話し、クラスごとに担任の先生から名前が呼ばれると、元気な声で返事ができました。



元気よく「ハイッ」と返事

誓いの言葉を述べる山口さん



開校2年目の甘楽中学校では、新しい制服に身を包み、希望に胸を膨らませた中学1年生106人(男子64人、女子42人)が入学しました。

新入生を代表して、山口めぐさんが「新しいことに全力で取り組み、努力することを忘れず、輝かしい甘楽中学校の校名に恥じない生徒となることを誓います」と誓いの言葉を述べました。

美しい町を切り絵で表現

甘楽きりえの会(丸澤桂子代表)では、3月15日から5月28日まで、長岡今朝吉記念ギャラリー(小幡)で、「第14回甘楽きりえ展」を開いています。

8人の会員が長い時間をかけ、根気と努力で仕上げた32点のきりえ絵作品は、甘楽町の豊かな自然や風景のほか、ひまわりや椿、ききょうなどの四季の花々も色鮮やかに表現されています。

丸澤代表は「切り絵はスケッチをして和紙に合わせてカッターで切り、色を重ねるもの。切り口をきれいに見せるのが特徴。会員の皆さんの力作が並んでおり、県内外から多くの人が見に来てくれている」と話しました。

同会では6月3日から5日までベシシア文化ホール・展示室(前橋市)で開催される第36回群馬きりえ展にも出品を予定しています。



きりえの会の皆さん